

赤城山の自然学校で 子どもたちの成長をサポート

特定非営利活動法人 じゃんけんぽん

自然とふれあう機会が少なくなった最近の子どもたちは、昔の子どもに比べてたくましさや欠けるといわれる。そうした中で、NPO法人「じゃんけんぽん」は、赤城山のすばらしい大自然を生かした自然学校「赤城わらべの谷」の活動を通して、地域の子どもの成長をサポートしている。

冒険や未知の体験が詰まったキャンプ

赤城わらべの谷は、「自然のすばらしさや厳しさを知り、本来の子どもたちのあるべき姿を取り戻してもらいたい」という思いから、平成12年にスタートした。

具体的な活動としては、毎月第1日曜日の日帰りキャンプ「ゆこうよ森へ」と、毎月第2土曜日・日曜日の1泊キャンプを実施している。参加者の中心は、幼稚園児から小学生までの子どもとその保護者。前橋市苗ヶ島町の「赤城わらべの谷」や粕川町の大猿川のほとりに立つ「おおさる山乃家」などを拠点に、赤城山や周辺の自然の中を歩き、キャンプをする。

その行程は決して楽なものではない。岩登りや川渡りなどの難所もあり、子どもたちにとっては冒険の連続だ。また目的地に着いても、テントの設営や野外料理などさまざまな試練が待っている。



自然の中での体験が自立心や思いやりの心を養う

大人は一步下がって見守り 子どもの自立心を育てる

過保護ひそくすぎでは子どもの自立心は育たない。そこで、ひそく 菅田裕代さん・慶子さん夫妻をはじめとする主催者スタッフや保護者たちは、できるだけ手を出さないように心がけている。

キャンプの基礎や四季を通しての危険回避方法など必要な指導を行ったあとは、主役である子どもたちが自分自身で考え、行動するのを一歩下がって見守っている。

もちろん危険な場所などでは大人が手を貸すし、安全には万全の配慮をしている。子どもも判断を任されることで責任の重さを感じ、ふだんよりも注意深く行動するようになる。そのため、これまで子どもがケガをしたことは一度もない。

こうして日常生活を離れ、自然の中での生活を体験することで、自立心や思い



「大猿の滝」への日帰りキャンプ

やりの心が養われ、子どもたちは情操面で大きく成長する。問題を抱えた子どももなかにはいるが、不登校気味だった子どもの状態が改善するなど大きな効果をあげている。また、初対面の子ども同士が友だちになったり、保護者同士が仲間意識を持つようになるのも自然学校の効果だ。

菅田さん夫妻も保護者の話しに積極的に耳を傾けるなど、幅広い視点から子どもの成長をサポートしている。

今後は世代間交流の場の提供も

同団体では自然学校と同時に、認知症対応型「グループホームじゃんけんぽん」や小規模多機能の家「じゃんけんぽん国府」を運営するなど高齢者福祉も事業の大きな柱としている。そこで、今後は日常的に高齢者と子どものふれあいの場を提供するなど、世代間交流にも取り組んでいきたいと考えている。

地域住民のコミュニケーションのフィールドを広げて、誰もがいつまでも安心して暮らせるまちづくりを進めていくつもりだ。

特定非営利活動法人
じゃんけんぽん

群馬県高崎市棟高町 1257-5
TEL.027-350-3191 FAX.027-350-3192
<http://www.jankenpon.jp/>